

社会福祉法人 楽山会
第二椎の実子供の家
平成 30 年度 事業報告

平成 30 年度は、新保育所保育指針の施行にあたり、新指針の重点となる「乳児保育の充実」と「幼児期の教育機能の向上」について、職員間で研修や会議を通して学びあった。保育所における保育・教育を「幼児教育」として捉え、より教育機関としての機能を果たすために、「就学前教育カリキュラム」を作成するとともに、「モンテッソーリ教育カリキュラム」を再編し、実践に取り組んだ初年度であった。保育においては、子どもの自主性や主体性を高めることに重点を置き、四季折々の行事や生活、遊びを通して多様な経験を積み、心身共に健康に過ごすことを第一とした。

職員教育では、専門性や質の高い保育・教育が提供できるよう、キャリアアップ研修には計画的・積極的に参加させ、人材育成に努めた。

保護者との連携においては、「保護者ボランティア制度」を初めて導入した年となった。保護者の協力体制により園行事など円滑に行うことができた。また、12月に「第三者評価」を受審したが、その折にも保護者からの率直な意見を多数いただいた。今後もサービスの質の向上のために、課題の改善に向けて取り組むとともに、保護者との協働性を高めていくことを目指す。

一方、地域に開かれた保育園の役割と責任として、地域の子育て家庭の保育ニーズに積極的に応えていくとともに、実習生やボランティアの受け入れなどを行い、次世代育成支援についても貢献した。

重点目標

- I 生活や遊び、運動、表現活動を通して「学びに向かう力」を育む保育の推進
- II 幼児教育機関として、より専門性の高い人材育成
- III 衛生管理、安全管理の周知及び徹底
- IV 地域子育て支援の充実と、地域・保護者との連携により共育活動を推進する
- V 椎の実子供の家園舎建替事業

I 生活や遊び、運動、表現活動を通して「学びに向かう力」を育む保育の推進

乳幼児の発達段階を踏まえ、個々の子どもの興味や欲求に応じた遊びを十分に確保し、子どもが主体的に取り組める魅力ある教育・活動の工夫や、モンテッソーリ教育の精神を主体とした自立への支援を行った。基本的な生活習慣の確立、遊具や道具を使った運動遊び、年齢や発達に応じたルールのある集団遊びを経験させて、楽しみながら体づくりを行い、人と関わる力を身につけられるよう努めた。

今後は、さらに指導の工夫を重ね、今まで以上に子どもたち一人ひとりが十分に体を動かし、夢中で遊びこめる活動や生活、自然体験が十分味わえるような環境づくりに力を注ぐ。

また、保育所が小学校に繋がる幼児教育機関としての役割を果たすため、9月から5歳児だけで活動する時間を増やし、1月からは保育室を別にして過ごすことで、縦割り混合クラスとは違った連帯感や仲間意識が芽生え、生き生きとしていった。就学先が異なっても、1年生になるのだという期待感に満ちていた。

4.5歳児を対象とした囲碁教室の取り組みは3年目となった。ルールがある遊びを行う中で、相手への敬意や挨拶など、礼儀作法を学ぶことができた。

II 幼児教育機関として、より専門性の高い人材育成

これからの保育園を担う人材として成長していけるよう、適切な時期に必要な研修に参加する機会を逃さず、各職員の中期研修計画を継続させた。さらに、個人の希望を反映させた研修への派遣も行うことで、モチベーションアップに努め、より専門性を高める人材育成を目指した。保育士の処遇改善対策の一つとして行われるキャリアアップ政策に沿い、経験豊富な職員へ該当研修を受講させ、組織の中核となる職員を育成していくことに努めた。

平成 29 年度に引き続き、臨床発達心理士による発達相談を行った。特性のある子ども、発達に課題のある子どもに対して、職員全員が一貫した対応ができるよう必要な援助方法を学び、実践した。その他大学講師を招き保育や食育の質を高める講座を開催した。

モンテッソーリ教員資格取得については、教員資格取得のための研修費の一部を補助する制度を活用し、東京モンテッソー教育研究所付属教員養成コース（3歳から6歳児コース）に通学していた 2 名の保育士が卒業し、モンテッソーリ教員資格を取得した。

III 衛生管理、安全管理の周知及び徹底

施設内の環境を常に適切な状態に保持するとともに、施設内外の設備、用具等の衛生管理に努めた。平成 29 年度に受けた保健所の指導立ち入り検査の指導を活かし、感染症流行期における防止策として、給食室内へのワゴンの出入の際は、次亜塩素酸を浸したタオル上台車が通るようにし、菌を給食室内に持ち込むことのないよう特段の対策を講じた。胃腸炎等の感染症については、初期対応の徹底において流行することは無かった。

食物アレルギーについては、安全で安心な給食提供を行うため、全職員が基礎知識を持ち、日常的なコミュニケーションの徹底を図り、年間を通して誤食などの事故予防に努めた結果、誤食は無かった。

IV 地域子育て支援の充実と、地域・保護者との連携により共育活動を推進する

地域子育て支援については、地域の実情や子育て世帯における様々なニーズを踏まえながら、地域貢献の一環として、「出産を迎える親の体験学習」「保育所体験」を行った。椎の実子供の家との連携を図りながら、一時預かりや年末保育を行い地域の保育ニーズに応えた。職員は、地域子育て支援の役割の重要性を認識し、利用者が安心して気持ちよく利用できるよう配慮し、子育てサポーターとしての役割を担った。

平成 30 年度は大成高校ボランティア部のほかに、初めて育児休暇中の父親のボランティア参加があり、みたかボランティアセンターを通して 6 日間の受け入れを行った。

園と保護者の連携においては、平成 30 年度より保護者ボランティア活動を開始し、園の行事等を中心にご参加いただいた。保護者の積極的なサポートやご協力により、園行事を円滑に進めることができた。今後も子どもを共に育てる視点を大切にし、園活動に理解と協力を求めていく。

V 椎の実子供の家園舎建替事業

平成 27 年度からの椎の実子供の家・第二椎の実子供の家の職員によるプロジェクトチームにより、設計に反映すべき要望を取りまとめた。法人において、平成 30 年 10 月「椎の実子供の家建替え基本構想」を策定した。

同年 12 月から、これまでの視察調査等を踏まえ、設計業者 6 社を選定し、プロポーザル参加依頼の文書を送付した。

平成 31 年 3 月、書面による技術提案書が 5 社から提出され、外部からの委員を含む 7 人の審査委員による選定審査委員会を 2 回開催し、設計実施候補者を選定した。

1 園児について

園児とクラス編成

(1) 定員 120名

(2) 年齢別 ① 0歳児 9名 ② 1歳児 17名 ③ 2歳児 22名
 ④ 3歳児 24名 ⑤ 4歳児 24名 ⑥ 5歳児 24名

(3) クラス編成と職員構成

クラス名	対象年齢	定員	在籍数	保育士	職員数
たんぽぽ	0歳児	9名	9名	3名	園長 1名 副園長 1名 保育士 21名 看護師 1名 栄養士 1名 調理員 3名 非常勤職員 18名 嘱託医 1名
すみれ	1歳児	17名	17名	3名	
つくし	2歳児	22名	22名	4名	
もも	3歳児	8名	8名	2名	
	4歳児	8名	8名		
	5歳児	8名	8名		
さくら	3歳児	8名	8名	2名	
	4歳児	8名	8名		
	5歳児	8名	8名		
あんず	3歳児	8名	8名	2名	
	4歳児	8名	8名		
	5歳児	8名	8名		
合計		120名	120名	16名	
一時預かり いちご	満1歳～5歳	6名		2名	47名

4月は0歳児1名の欠員があったが、5月より定員を満たすことができました。

8月から1月まで、3歳児1名の欠員が生じたが、2月より充足でき120定員を維持した。